

April 5, 2021

【前日の為替概況】ドル円 110.75 円まで強含み、米 3 月非農業部門雇用者数が+91.6 万人

2日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反発。終値は110.69円と前営業日NY終値(110.62円)と比べて7銭程度のドル高水準だった。聖金曜日の祝日(グッドフライデー)で海外の市場参加者がほぼ不在のなか、欧州時間には持ち高調整の円買いが入り、一時110.38円まで弱含む場面も見られた。3月米雇用統計で非農業部門雇用者数変化が91.6万人増と市場予想の64.7万人増を大幅に上回る強い結果となると、米10年債利回りの上昇とともに110.75円まで反発した。引けにかけては市場参加者の不在や手掛かり材料難で動意を欠き、110.60円台での小動きとなった。

ユーロドルは3営業日ぶりに反落。終値は1.1759ドルと前営業日NY終値(1.1777ドル)と比べて0.0018ドル程度のユーロ安水準だった。ドル円の下落を受けて欧州時間に1.1786ドルまで上昇したが、その後は上値が重くなった。米雇用統計の発表直後は上下に振れたものの、次第に米長期金利の上昇につれた売りが優勢となり、22時過ぎには1.1749ドルまで反落。その後の戻りも限られた。

日本時間3日2時過ぎには米連邦議会議事堂付近で車が警戒中の警官に突っ込む事件が発生。休会中だった議事堂が一時閉鎖される事態となったが、テロ関連ではないとの発表もあったため、相場への影響は限定的だった。

ユーロ円は4営業日ぶりに反落。終値は130.17円と前営業日NY終値(130.27円)と比べて10銭程度のユーロ安水準だった。ドル円の下落につれて130.04円まで弱含んだものの、その後は下げ渋る展開に。欧米株式相場が軒並み休場となる中で手掛かり材料難となり、130円台前半での神経質な動きに終始した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米 10 年債利回り 1.7% 台で底堅い展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、イースターマンデーでニュージーランドとオーストラリアが休日、中国と香港は清明節などで休日のため閑散取引が予想される中、米3月雇用統計の改善を受けて底堅い展開が予想される。

ドル円のオーダー状況は、上値には、110.80-90円に断続的にドル売りオーダー、111.00円にドル売りオーダー、超えるとストップロス買い、111.10-20円にドル売りオーダーが控えている。下値には、110.20-30円には断続的にドル買いオーダー、110.00円にはドル買いオーダーと7日のNYカットオプションが控えている。

米3月の雇用統計は、新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、バイデン米政権の追加経済対策や事業への規制が緩和されたことを受けた労働市場の復調の兆候を示す好結果となった。失業率は6.0%へ低下し、非農業部門雇用者数は前月比91.6万人と大幅に増加、2月の非農業部門雇用者数も+46.8万人に上方修正された。2020年3-4月に新型コロナウイルス感染拡大を受けて2236.2万人の雇用が喪失した後、2020年5月から2021年3月までに1456.3万人の雇用が回復したことで、コロナ禍前の雇用者数の回復まで779.9万人となっている。懸念材料としては、依然として421万人超が半年以上の長期失業状態にあること、労働参加率が61.5%に留まっていることなどが挙げられる。

なおパウエルFRB議長が警戒していた「パウエル・ダッシュボード」は以下の通り。

- 1) 黒人失業率：9.6% (2月9.9%：昨年4・5月16.7%)
- 2) 低賃金労働者の賃金の伸びの低迷
- 3) 非大卒者の労働参加率：54.8% (2月54.7%)

米連邦準備理事会(FRB)が利上げ開始の条件としていた労働市場の改善の兆候が確認されつつあることで、7日に発表される3月の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨では、経済見通し(SEP)で2022年の利上げを支持したタカ派の4名の主張やテーパリング(資産購入の段階的縮小)開始に関する議論に要注目となる。

リスクシナリオとしては、米中対立激化や北朝鮮によるミサイル発射実験の再開を受けた極東の地政学リスク回避の円買い、世界的な新型コロナウイルス(変異株)感染拡大第4波の可能性、米国の「双子の赤字」の拡大を受けた米国債格下げへの警戒感や米国債増発による財源確保のためのドル安誘導の可能性などが挙げられる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>
特になし

<海外>

○16:00 ◎ 3月トルコ消費者物価指数（CPI、予想：前月比1.04%／前年比16.11%）

○22:45 ◎ 3月米サービス部門PMI改定値（予想：60.2）

○22:45 ◎ 3月米総合PMI改定値

○23:00 ☆ 3月米サプライマネジメント協会（ISM）非製造業指数（予想：58.5）

○23:00 ◎ 2月米製造業新規受注（予想：前月比▲0.5%）

○ニュージーランド、オーストラリア、ドイツ、スイス、フランス、英国、スウェーデン、ノルウェー、ポーランド（以上、イースターマンデー）、中国（清明節）、香港（清明節の振り替え）、南アフリカ（ファミリーデー）、休場

○豪州、NZは4日から冬時間に移行済み

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

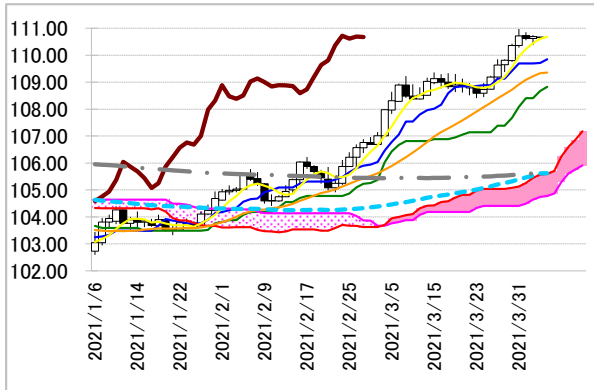
2日 10:30 加藤官房長官

「日米首脳会談を米国時間16日に行う」

「訪米予定がずれ込んだ理由は成功に万全を期すため」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

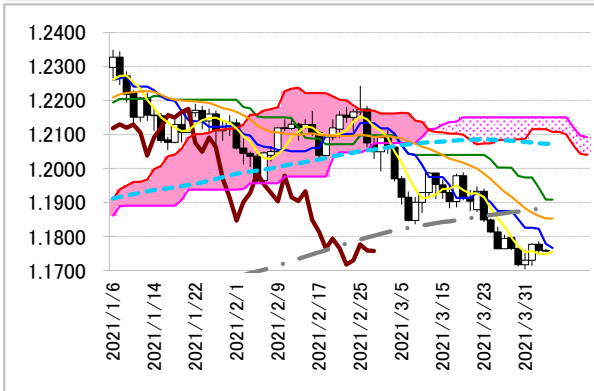


<ドル円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることから、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。6手連続陽線で上昇した後、伸び悩む展開となっているものの転換線を上回って引けていることから、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	111.30(2020/3/26 高値)
前日終値	110.69
サポート1	109.71(日足一目均衡表・転換線)
サポート2	108.73(3/25 安値)

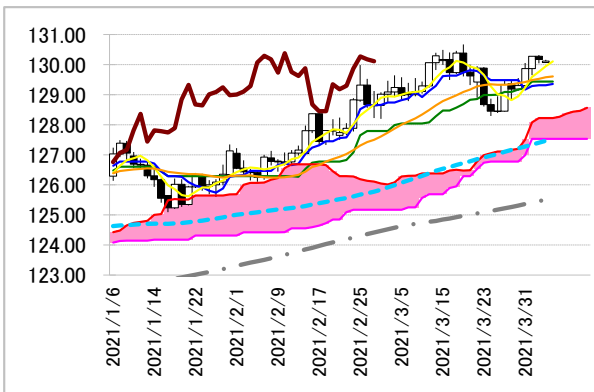


<ユーロドル=3/24 高値を抵抗に売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。2手連続陽線で反発した後、インサイド・デイ（孕み線）で転換線を下回って引けていることから続落の可能性が示唆されている。

本日は、3月24日の高値を抵抗に売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1853(3/24 高値)
前日終値	1.1759
サポート1	1.1704(3/31 安値)

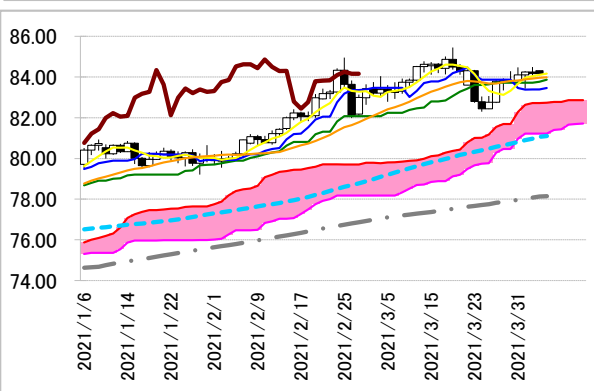


<ユーロ円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることから買いシグナルが優勢な展開となっている。インサイド・デイ（孕み線）で反落しているものの、転換線を上回って引けていることから反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	130.67(3/18 高値)
前日終値	130.17
サポート1	129.31(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることから、買いシグナルが優勢な展開となっている。インサイド・デイ（孕み線）で反発しているものの、転換線を上回って引けていることから反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	85.45(3/18 高値)
前日終値	84.17
サポート1	83.39(日足一目均衡表・転換線)

